



S.Naka

THE TAKARAZUKA KINEN

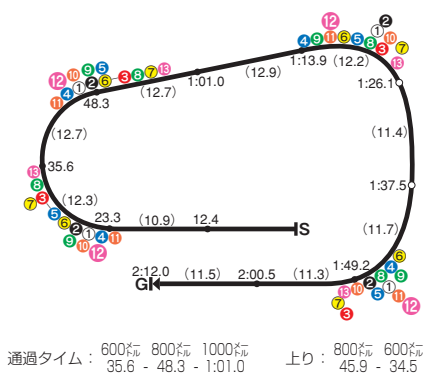
第65回 宝塚記念 (GI)

1着 2着 3着 4着 5着
 本賞 220,000,000円 88,000,000円 55,000,000円 33,000,000円 22,000,000円
 付加賞 2,730,000円 780,000円 390,000円



レース映像は
 コチラでご覧
 いただけます。

3歳以上、ファン投票および別々に定める方法により選定された馬、除未出走馬および未勝利馬
 負担重量 3歳53⁺、4歳以上58⁺、牝馬2⁺減



通過タイム：600^米 800^米 1000^米 上り：800^米 600^米
 35.6 - 48.3 - 1:01.0 45.9 - 34.5

2024.6.23 京都 曇・重 芝2200^米 (国際) (複定)

順位	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り (600 ^米)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑫	ブローザホーン	牡	5	58	菅原明良	2:12.0	11-11-10-7	34.0	428(+4)	7.5③	吉岡辰弥(栗東)	120
2	⑨	ソールオリエンズ	牡	4	58	横山武史	2	7-7-12-11	34.0	460(+4)	16.9⑦	手塚貴久(美浦)	117
3	③	ベラジオオペラ	牡	4	58	横山和生	クビ	3-4-3-2	34.8	518(+12)	11.6⑤	上村洋行(栗東)	116
4	⑦	ブラダリア	牡	5	58	池添謙一	クビ	3-2-2-1	34.9	468(-2)	15.1⑥	池添 学(栗東)	116
5	⑩	ローシャムパーク	牡	5	58	戸崎圭太	3	9-9-3-4	35.3	506(+2)	10.5④	田中博康(美浦)	111
6	④	ドウデュース	牡	5	58	武 豊	クビ	11-11-13-11	34.6	508(-)	2.3①	友道康夫(栗東)	111
7	⑤	ディーブوند	牡	7	58	幸 英明	クビ	5-5-8-5	35.2	508(±0)	25.4⑧	大久保龍志(栗東)	111
8	⑬	ルージエヴァイユ	牡	5	56	川田将雅	ハナ	1-1-1-2	35.3	468(+4)	33.8⑩	黒岩陽一(美浦)	107
9	①	ヤマニンサンバ	牡	6	58	団野大成	2	13-13-10-7	35.3	474(-10)	165.0⑫	斉藤崇史(栗東)	108
10	②	ジャスティンパレス	牡	5	58	C.ルメール	1¼	7-7-5-5	35.9	472(-)	3.7②	杉山晴紀(栗東)	105
11	①	シュトルヴェ	騾	5	58	D.レーン	5	9-9-5-7	36.7	470(-8)	25.4⑧	堀 宣行(美浦)	97
12	⑥	ヒートオンビート	牡	7	58	坂井瑠星	6	6-5-9-13	37.3	476(+4)	162.3⑪	友道康夫(栗東)	88
13	⑧	カラテ	牡	8	58	岩田望来	1½	2-3-5-7	37.8	530(-4)	133.1⑩	音無秀孝(栗東)	86

単勝⑦50円(3[▲]%) 複勝⑩240円(3[▲]%) ⑩400円(7[▲]%) ③350円(5[▲]%) 枠連⑥-⑧3,770円(18[▲]%)
 馬連⑨-⑫4,890円(20[▲]%) ワイド⑨-⑫1,310円(16[▲]%) ③-⑫1,330円(18[▲]%) ③-⑨2,360円(31[▲]%)
 馬単⑫-⑨9,380円(36[▲]%) 3連複③-⑨-⑫16,020円(61[▲]%) 3連単⑫-⑨-③91,680円(325[▲]%)
 5重勝②①③⑥⑫3,099,600円(179票) 対象競走：東京10R/京都10R/函館11R/東京11R/京都11R

アラカルト

- 菅原明良騎手は宝塚記念初勝利。JRA重賞は本年2勝目、通算10勝目。
- 吉岡辰弥調教師は宝塚記念初勝利。JRA重賞は本年3勝目、通算5勝目
- エビファニア産駒はJRA重賞通算23勝目
- 5歳馬の勝利は21年クロノジェネシスに続く通算20回目

ブローザホーン *Blow the Horn*

牡 鹿毛 2019.5.10生
 北海道新ひだか町 岡田スタッド生産
 馬主・岡田牧雄氏 栗東・吉岡辰弥厩舎
 馬名意味・その角笛を吹け

エピファネイア 鹿毛 2010	シンボリクリスエスUSA 黒鹿毛 1999	Kris S. Tee Kay
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウィーク キロフプリミエールGB
オートクレール 栗毛 2011	デュランダル 栗毛 1999	サンデーサイレンスUSA サワヤカプリンセス
	ジョイアサートイン 栗毛 1997	フォーティナイナーUSA
		アサートインUSA

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA M3×S4
 Hail to Reason S5×M5 Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

岡田牧雄代表(岡田スタッド)

人生で初めてGIの表彰台に立ちました

お母さんのオートクレールは小柄で奥手の馬でした。ブローザホーンも同じように小さく出たのですが、とにかく動きがよかったのを覚えています。デビュー2戦目で2着に来た時に「これはオープンまで行ける」という手応えをつかみました。それがオープンどころか宝塚記念まで勝ってくれて、人生で初めてGIの表彰台に立ちました。



K.Ishiyama

抗候補と目されていた昨春の天皇賞の覇者ジャスティンパレスは中団馬群の後方寄りを目指し、ドウデュースは折り合い重視の運びで最後方につけ、ダッシュが鈍かったブローザホーンは菅原明良騎手も先を焦らさずその外を進んだ。3コーナールの坂の上りに差し掛かると、ローシャムパークが馬群の外々をまくりあげて前に迫り、好位を追求してきたブラダリア、ペラジオオペラが応戦してペースアップ。菅原騎手も火花を散らす3頭を追い、坂の下りから徐々に進出を開始する。直線半まではブラダリアを競り落としたペラジオオペラが先頭に立ったが、外ラチに近い「最外」へ持ち出され、エンジンに火がついたブローザホーンは強烈な末脚を發揮。一気に突き抜けると、2着に追い込んだソールオレンスに2馬身差をつけてゴールに飛び込んだ。

2歳秋のデビューから初勝利までは9戦を要した本馬だが、その後は着々と実績を積み上げ、1月の日経新春杯で重賞初制覇。3月に引退した中野栄治調教師から管理を引き継いだ吉岡辰弥調教師のもとでも阪神大賞典3着、春の天皇賞2着と好走を重ねてきた。道悪実績も加味され、3番人気の支持を集めたこの日は雨も追い風にして実績上位の面々を一蹴。印象的な大外強襲を決め、デビュー6年目の菅原騎手、開業5年目の吉岡調教師ともども、初のビッグタイトルを掴み取った。

父エピファネイア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央、香、首14戦6勝(ジャパンC^{G1}、菊花賞^{G1}、神戸新聞杯^{GII}、ラジオNIKKEI杯2歳S^{GIII}、日本ダービー^{G1}2着、皐月賞^{G1}2着)、15年から供用、21~23年日本2歳リーディングサイヤー2位(代表産駒)デアリングタクト(桜花賞^{G1}、オークス^{G1}、秋華賞^{G1}、ジャパンC^{G1}3着)、エフフォーリア(皐月賞^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}、有馬記念^{G1}、日本ダービー^{G1}2着)、ダンデサイル(日本ダービー^{G1})、ステレンボッシュ(桜花賞^{G1})、ブローザホーン(本馬)、デンハッピーローズ(ヴィクトリアマイル^{G1})、サークルオブライフ(阪神ジュベナイルフィリーズ^{G1})、アリストテレス(アメリカJC^{GII}、菊花賞^{G1}2着)、モリアーナ(紫苑S^{GII})、他に活躍馬多数

母オートクレール

北海道日高町 出口牧場生産 中央49戦4勝(紅葉S、立待岬特別)、地方1戦0勝
ブローザホーン 本馬(19 牡父エピファネイア)中央21戦7勝(宝塚記念^{G1}、日経新春杯^{GII}、札幌日経オープン・L、烏丸S、潮来特別、天皇賞(春)^{G1}2着、阪神大賞典^{GII}3着、函館記念^{GIII}3着)獲得総賞金485,373,000円(20 不受胎)
 リヴァイデント(21 牝父ブリックスアンドモルタルUSA) ⑧
 (22 牝父リオンデイズ)
 (23 牝父ポエティックフレアIRE)
 (24 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)

祖母ジョイアサートイン

北海道門別町 出口牧場生産 中央3勝、地方0勝。15年死亡
 オートクレール(11 前出)
 デザートスネーク(14 駟父ブラックタイド)中央5勝(内房S、鶴山特別、ペテルギウスS・L3着)、地方2勝

曾祖母アサートインUSA

北米1勝。90年輸入、98年死亡
 キープタブス Keep Tabs(90 牝父Hagley)不出走、ダリエル Darielle(ミゲルフォートマゴット賞・ブルー^{G3}3着)の母
 ジョーヤマト(93 牡父シンボリドルフ)中央5勝(オリオンS、御嶽特別、ダイヤモンドS^{GIII}2着、大阪ハンブルクC^{OP}3着)、地方1勝
 ジョイアサートイン(97 前出)

四代母オベア Beah

アメリカ産 北米11勝(デラウェアH2回、フィレンツェH)、ゴーフォワード Go for Wand(米2歳&3歳牝馬チャンピオン)の母

人馬ともに待望のビッグタイトル獲得

レースの2日前、近畿地方にも梅雨入りが発表され、ディープリンバクトが優勝した2006年以來の京都開催となった宝塚記念は18年前と同様のぐずついた空のもと、重馬場を舞台に争われた。断然の支持を集めたのはファン投票で歴代最多の得票を記録したドウデュース。しかしグランプリ連覇に挑んだダービー馬の末脚は不発に終わり、勝利の女神は同じ5歳の新星ブローザホーンに微笑んだ。

いったんはあがった雨が再び降り始めたなかでゲートが開くと、まずはカラテが飛び出して先手を窺ったものの、ルージュヴァイユがコーナーでこれをかわし、先導役を買って出る。対